

百味講たより

令和7年12月発行
発行所大本山増上寺
百味講講報企画部
発行者 山本栞老和

第29号



伊藤 広喜
大本山 増上寺 施設部長

江戸の意気地いきじ

百味講の皆様には大本山増上寺の御忌大会をは

じめ諸行事へのご奉仕をたまり厚く御礼申し上げます。

私が皆様を拝見したのは芝中学一年生の時に御忌参拝を宗内生として旧安国殿が御本堂であった時代でした。

その時は名前も知らず、後々調べてみると江戸時代からのお付き合ひ、明治時期の錦絵には御忌会に百味旗とわかるのぼりが描かれておりました。

「京では粋すいといい江戸では通り者、いきという」

通り者とは物事に精通している通つうのこと、いきとは意気地いきじのこと、「いきじ」とも読みます。相手が誰でも自分の意志を通す心意気の意味(意地)で嫌味がなくねちねちせず、さっぱりと垢抜けている江戸の美意識をあらわしています。

京の粋は絢爛豪華ですが、江戸は何回も奢侈禁止令や質素儉約令が出たのでそうはなりませんでした。それは今でも私達の法衣や袈裟に引き継がれて

おります。

たとえば金糸は鍔金や抜き糸に濃茶や濃紺等を使い渋めのものが多く、安国殿で正五九のご祈願の際、式衆が着用する法衣の色は梅ねず色という赤みを帯びた薄い鼠色(江戸は火事が多く灰という字を嫌った)で鼠色をベースにした江戸時代に流行した四十八茶百鼠(しじゅうはつちやひやくねずみ)の一つです。

また、法衣の襷ひだもスカートのように広がらないようにふんだんに生地を使う隠し味もあります。遠目質素、近目豪華なのです。

「このころのきよきをいきよしという」

この言葉はご本山を支えくださっている百味講の皆様方にまさに当てはまることばと存じあげます。

私事ですが来年はひとかたならぬお世話をお掛け致します。

その時には皆様のご隆盛とご健勝を改めてご祈念致す次第でございます。



「過去から現在　そして未来へ」

葬儀社富士典礼　岩村　辰彦

この度、「百味講だより」に寄稿させていただくにあたり、貴重な機会を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。葬儀社富士典礼の岩村辰彦と申します。

私ども富士典礼は、ご葬儀という、故人様とご遺族の皆様にとって最も大切な、そして厳粛な儀式に携わせていただいております。その中で、増上寺様とのご縁は深く、日頃より多大なるご指導を賜っております。

「過去から現在、そして未来へ」というテーマで、私のささやかな経験をお話させていただきます。百味講の一員として活動させていただき、三年目を迎えます。歴史ある講の皆様とのご縁に感謝しつつ、日々、学ばせていただいております。

私の若かりし頃、生花店に勤務していた時期がございます。そこでお世話になった華道家の先生の言葉が、今でも深く心に刻まれています。ある日、私の活けた花をご覧になった先生は、静かに、しかし力強く仰いました「あ

なたの挿す花は、まるで現在と未来ばかりで、過去の花がない。過去に咲き、命を終えた花々が共存してこそ、時間の流れが表現され、人間の繋がりが、ひいては命のつながりをもあらわすことが出来るのです。」

当時の私は、瑞々しい生命力に満ちた花ばかりに目を奪われ、枯れたものや過ぎ去ったものを軽視していたのかもしれない。先生のお言葉は私にとって大きな気づきとなりました。

百味講の活動に携わるようになり、改めてこの言葉の重みを感じております。葬儀という仕事を通じて、私もまた、故人様とご遺族を繋ぐ役割を担っております。増上寺様という偉大な歴史を持つ大本山、そして江戸時代から続く百味講の皆様とのご縁は、まさに「過去の花」なくしては成り立ちません。先人たちが築き、守り伝えてきた功績と、その思いの上に、現在の私たちの活動があります。現在の活

動は、過去の伝統を継承しつつ、時代に合わせ柔軟に形を変えていく必要があります。しかし、形が変わっても、根本にある「過去の花」が、私たちの「現在」を支え、「未来」へと繋がっていくのだと信じています。

結びに、この尊いつながりを未来永劫受け継いでいけるよう、皆様とともに精進していく所存でございます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、心よりお願い申し上げます。





「日々精進」

(株)花幹 三須 健

増上寺様には、日頃より大変お世話になり心より御礼申し上げます。

大殿や安国殿のご供花、お彼岸、お盆など、年間を通じて様々な行事に際し、生花を納品させていただいております。

中でも、御忌大会で法然上人にお供えする立華は、高さ5メートルにもなる壮大な活け花でございます。このような大役を任せていただけることに、重ねて感謝申し上げます。

私は、株式会社花幹の三須と申します。弊社は生花全般を取り扱っておりますが、その中でも特に、葬儀に関わる生花の設営と提供を主たる業務としております。

ご葬儀の場における生花は、悲しみに寄り添い、心を静かに癒す力、そして故人様への深い感謝と最後の別れの気持ち伝える力という役割を担っています。私共はこの花の力を通じて、故人様を送るご遺族様の心に寄り添

うお手伝いをさせていただけることに、深い感謝と誇りを感じております。

弊社が百味講に入講させていただいたのが二十七年前、その頃のご葬儀ではバブル崩壊後、それでもまだ、お通夜には大勢の会葬者が訪れていた様に記憶しております。が、次第に大型葬も少なくなり、家族葬や直葬といった小規模のご葬儀が増えてまいりました。

二〇二〇年にはコロナ禍がたくさんの人々を苦しめ、葬儀場も閑散とし、人が集まらない中でのご葬儀、家族だけのご葬儀、必然と直葬の割合もかなりを占め、本当に苦しい日々が続きました。

三年程がたつて、ようやくコロナ禍も落ち着き、ご葬儀の施工数も戻ってまいりましたが、現在では異常気象による花の価格高騰、資材費の高騰そして人手不足と、私たちを取り巻く環境は厳しさを増しております。さらに、

葬儀の縮小化という時代の流れも重なり、会社を継続させていくために何をすべきか、日々頭を悩ませております。

厳しい時代ではありますが、これまでの経験と知識を活かし、変化を恐れずに挑戦していくことが、会社の未来を切り開くと信じております。

これからも、増上寺様とのご縁を大切に、百味講の一員として微力ながらも貢献を続けていきたいと思っております。増上寺様が大切にされている教えや行事を支え、多くの方々にとって心の拠り所であり続けるために、私たちに出来る事を精一杯務めてまいりる所存でございます。



百味講アルバム2025



新年会にて



準備万端



母畑温泉にて



課長懇親会にて

❖❖❖❖ 「太田さん、ありがとうございました」 ❖❖❖❖



太田法衣店

太田祥二様の退講にあたり

この度百味講の一員として、大本山増上寺様の護持発展に共に寄与して参りました、太田法衣店様が退講されました。

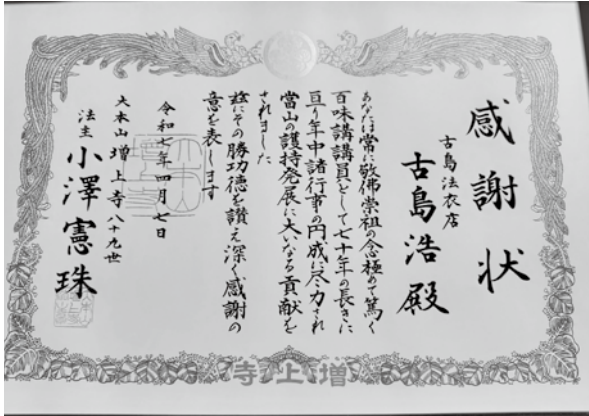
太田様は、吉野講元から私まで、四代の講元の副講元として長きにわたり、そのお力を発揮し支えて頂き、百味講の興隆にご尽力されました。

講員一同、心より感謝申し上げます。

百味講講元 山本 海老和

「古島さん 表彰されました」

令和7年度御忌大會4月7日結願法要において、古島さんが70年もの長きにわたり百味講員として十種供養に尽力された功績が認められ、功労者として表彰されました。



去る令和7年9月21日、増上寺慈雲閣にて芝神明榮太樓内田吉彦様のお葬儀が執り行われました。謹んでご冥福をお祈りいたします。



去る令和7年1月29日、増上寺光撰殿にて安田松慶様のお葬儀が執り行われました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

「お悔やみ」

令和6年度百味講事業報告

自 令和6年3月1日
至 令和7年2月28日

令和6年	3月7日	講中護持会役員会
	27日	定期総会 「椿の間」
	4月2日	定例会、御忌供物準備会「天陽院」
	3日～7日	御忌大会（お練行列8座出仕）
	14日	地藏尊慶讃大法要、お練行列出仕
	5月6日～7日	研修旅行 福島 母畑温泉
	5月15日	正五九祈願会「安国殿」
	6月24日	納涼会・課長懇親会「銀座らん月」
	7月2日	講中護持会役員会
	19日～20日	地藏尊盆踊り
	8月26日	暑気払い「新橋亭」
	9月15日	正五九祈願会「安国殿」
	10月14日	みこし講 知恩院神輿奉納
	10月25日	定例会「文化室」
	11月29日	縁山流聲明と雅楽の夕べ 参観
	12月3日	講中護持会役員会
	10日	百味講忘年会「銀座らん月」
	31日	年越し・三門警備出仕
令和7年	1月15日	正五九祈願会「大殿」互礼会「講堂」
	20日	節分追儺式事務所開き
	28日	新年会・部長懇親会「銀座治作」
	2月2日	節分追儺式・行列整備・当り券引換
	24日	円山隨身稻荷慶讃法要（二の午）

事業計画（案）

- ① 年間事業計画書の作成
 - ② 講報第29号の発行日・掲載内容の検討、原稿担当者の確認
 - ③ 本年度諸行事確認、研修旅行その他
 - ④ 御忌出欠
 - ⑤ 太田元副講元ご勇退に関して
 - ⑥ 旅行費の取り扱いについて
- ※その他、連絡事項



大本山 増上寺 御用 達百味 講

浄土宗
袈裟・法衣専門

(有) 吉野法衣店

吉野 輝雄

〒160-0012 新宿区南元町17
TEL 03-3355-2168 FAX 03-3355-2204

葬儀・法要専門料理

(株) 玉乃家

江口 栄一

〒146-0092 大田区下丸子2-16-12
TEL 03-3757-5511 FAX 03-3757-5515

伝統の技
三代にわたる信頼

(有) 古島法衣店

古島 浩

〒111-0041 台東区元浅草4-2-1
TEL 03-3842-1289

総合印刷

(株) エスプリ

阪本 順一

〒135-0033 江東区深川1-6-7
TEL 03-3641-1891 FAX 03-3641-1923

仏壇・仏具

(株) 瑞祥浜田

浜田 明男

〒111-0042 台東区寿2-9-13
TEL 03-3844-9473 FAX 03-3844-5017

表装・額装・襖一式

石森表具店

石森 一

〒108-0073 港区三田1-7-2-102
TEL 03-3451-3138

佛像彫刻・文化財保存修復

佛師 山本 築老和

山本 築老和

〒145-0063 大田区南千束3-28-5
TEL 03-3727-1122 FAX 03-3727-1122

仏壇・仏具

(株) 安田松慶堂

吉田 征史

〒104-0061 中央区銀座7-14-3
TEL 03-3542-5771 FAX 03-3546-2140

増上寺謹製・三縁クッキー

(有) ポエム洋菓子店

安部 嘉祐

〒174-0046 板橋区蓮根1-18-11
TEL 03-3966-2324 FAX 03-3966-2398

音響・映像・NET配信

(有) ボブス

豊田 浩人

〒145-0067 大田区雪谷大塚町7-10-703
TEL 03-3729-5148 FAX 03-3729-5149

創業寛政二年(1790年)八代目

(有)石政石材店

眞田 貴志

〒108-0071 港区白金台4-5-7

TEL 03-3441-1483 FAX 03-3441-3156



葬儀・式典企画運営

富士典礼

山本 雅嗣

〒142-0042 品川区豊町4-3-17

TEL 03-5434-2210 FAX 03-5434-0860

思いとどける ころろ伝える。

(株)日本香堂

小林 日出男

〒171-0014 豊島区池袋3-18-12

TEL 03-3973-7111(代) FAX 03-3530-1238

葬儀のご用命は
古い信用・新しいサービス

(株)牧野総本店

豊島 洋子

〒108-0074 港区高輪1-21-1

TEL 03-3445-0506 FAX 03-3445-0508

お花で思い出を永遠に

(株)花 幹

三須 健

〒143-0024 大田区中央8-31-11

TEL 03-3755-2120 FAX 03-3754-4687

和菓子全般

芝神明榮太樓

内田 智美

〒105-0012 港区芝大門1-4-14

TEL 03-3431-2211 FAX 03-3431-2212

旅のことならすべておまかせください

東武トップツアーズ 株式会社
押上支店

安部 吉弘・福島 華子

〒131-0045 墨田区押上2-18-12

東武館1F

TEL 03-3624-1923 FAX 03-3621-8624

各種ご用命は
御本山御用達の百味講
各店へ!

大本山
増上寺御用達百味講